



学校だより

川越市立山田中学校

令和4年12月6日発行

学校教育目標『人を尊び 本気で学び たくましく』

～ふるさと川越山田に自信と誇りを持てる生徒の育成～

地域とともに ～市制施行 100 年にあたり～

校長 守岡 信一

大正 11 年 12 月 1 日、今から 100 年前に川越は県内で初めての市となりました。当時の人口は約 3 万人（現在は約 35 万人）でした。

その後、山田村が川越市と合併したのは昭和 30 年（1955 年）、今から 67 年前のことです。市制施行 100 周年にあたり、本校の歴史を改めて振り返ってみたいと思います。

本校は昭和 22 年に入間郡山田村立山田中学校として開校して以来 76 年目です。市村合併により昭和 30 年に校名を川越市立山田中学校に改称しました。昭和 51 年 4 月に校舎が現在の地に移るまでは、山田小学校の敷地内に山田中学校もありました。卒業生は 7200 人を超えます。第一回卒業生の方々は今年で 90 歳です。また、現在の原 P T A 会長さんは 45 代目、校長は 23 代目になります。

私たちは、現在のような先が不透明で変化の激しい中であって、未来を担う生徒達の健全な育成を図るには、課題を学校のみで解決しようとするのではなく、時には立ち止まり振り返って、過去・先人に学び、地域の力をお借りする事が大切であると思います。歴史と伝統ある本校は常に地域に支えられ、地域の発展とともに歩んできました。今後も、地域の宝である生徒一人一人を全教職員で大切に育てていきたいと思っています。今後とも保護者・地域の皆様のご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

（写真左：昭和 23 年度 1 年男子、校舎前で）（写真右：昭和 52 年頃の校舎を空から）



【開校五十周年記念誌「道標」（平成八年）より一部抜粋】

- ・昭和一桁生まれの私は初の一年生として入学した。しかし中学とは名ばかりで校舎もない。私たちの教室は卒業したばかりの山田小学校の間借りだった。小学三年生から男女別クラスだったが、中学入学とともに男女共学になった。お互い切磋琢磨できる良い機会だった。（S24 年度卒）
- ・給食はいつも食パンだった。それも三枚・・・。体育の時にはジャージはなし。革の鞆、女子は革靴だった。一番の思い出は「ひので号」で行った京都・奈良への修学旅行。私の子供も山田中から巣立った。卒業生の一人として、これからも山田中の発展を願っている。（S39 年度卒）